

2016 年度（対象年度：2015） 自己点検・評価シート 【大学全体の視点】

基準 10	内部質保証
-------	-------

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
1001	【大学全体の視点】 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしていますか。	【大学全体の視点】 ① 年度ごとに自己点検・評価を行い、その結果を社会に公表していますか。【※どのように】	A	A
1002	【大学全体の視点】 内部質保証に関するシステムを整備していますか。	【大学全体の視点】 ② 自己点検・評価を改革・改善に繋げるシステムを整備していますか。【※どのように】	B	B
		【大学全体の視点】 ③ 独自の外部評価を実施し、学外者の評価を自己点検・評価に取り入れていますか。	B	
1003	【大学全体の視点】 内部質保証システムを適切に機能させていますか。	【大学全体の視点】 ④ 自己点検・評価データベースは有効に活用されていますか。【※どのように】	B	B
		【大学全体の視点】 ⑤ 教員活動自己点検システムは有効に活用されていますか。【※どのように】	A	
		【大学全体の視点】 ⑥ 文部科学省および認証評価機関等からの指摘事項について適切な改善を行っていますか。【※どのように】	A	
		【大学全体の視点】 ⑦ 自己点検・評価の実施により各組織の改善が進んでいますか。【※どのように】	B	
		【大学全体の視点】 ⑧ 評価を改善に繋げる主体的な評価文化の醸成を図っていますか。	B	

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。
点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。

1001 ① 本学は、学校教育法第 109 条にもとづいて、内部質保証の方針である「龍谷大学内部質保証のあり方について」（2010 年度第 44 回部局長会）を定め、「機関（組織）としての自己点検・評価」と「教員個人の諸活動に対する自己点検」という 2 つの視点から大学の質を自ら保証（内部質保証）することとし、「自己点検・評価制度」と「教員活動自己点検」を 2011 年度から毎年度実施している。結果公表については、「大学評価に係る公表の方針」（2012 年度第 43 回部局長会）において公表の基本姿勢、範囲、方法を定め、これに基づき、「2015 年度 自己点検・評価の結果公表について」のとおりに本学 web サイト上（内部質保証ページ）に公表することと

した（2015年度第1回全学大学評価会議）。なお、各組織の自己点検・評価シートは現段階では公表対象とはせず、まずは、評価文化の醸成や改善に繋がる評価の実現を目指すこととしている。

以上から、大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を適切に果たしていると評価している。

1002 ② 2010年度から、全ての学部、研究科、教養教育センター、学部共通コース、短期大学部に自己点検・評価委員会を設置している。また、上記の「自己点検・評価制度」において、学内各組織が自らの判断と責任においてその諸活動について点検・評価を行い、その結果を「自己点検・評価シート」にまとめ、全学大学評価会議が点検・評価し、評価結果を各組織にフィードバックしている。加えて、単一組織では取り組むことが難しい「全学的課題」を抽出し、部局長会が主体となって改善に取り組む仕組みを整備している。2015年度においては、大学全体の視点シートから14項目、各組織から1項目の課題が抽出され、このうち9項目を全学的課題事項とし、担当理事の指示のもと、改善に取り組んでいる。（2015年度第2回全学大学評価会議、2016年度第3回部局長会）

③ 外部評価については、全学的な外部評価は実施していないものの、法人として、毎年度、株式会社格付投資情報センター（R&I）の格付評価を受け、各組織においては、アドバイザリーボード（経済学部）やJABEE（理工学部）など、学外者の評価を取り入れる取り組みがなされ、様々なレベルにおいて学外の評価や意見を取り入れる仕組みを充実させていることが各組織の自己点検シートから伺えた（2015年度第2回全学大学評価会議）。

以上から、内部質保証に関するシステムを概ね整備していると評価している。

1003 ④ 自己点検・評価シート及び根拠資料を保存し、各組織が学内LANを介して自由に閲覧できる「自己点検・評価データベース」の運用を2013年5月から開始してきたが、利用実績に偏りがあるため、2015年度中に大幅なシステム見直しを行い、他組織の取組との比較や組織内での情報共有が促進されるよう改良した。今後は、改良を学内周知することにより、有効に活用されるよう働きかけていく。

⑤ 教員活動自己点検については、基準3のシートで点検・評価しているとおり、第5次長期計画第二期中期計画のアクションプランを踏まえて、その活性化（実質化）の具体策を検討している。システムとしては2015年度入力率が99%と、有効に活用するために活動記録の蓄積が順調に進んできている。

⑥ 文部科学省の設置計画履行状況等調査における指摘事項については、2015年度は留意事項が付されなかった。認証評価での指摘事項については、協会への改善報告書提出へと繋げるため、当該組織が目標を定めて計画的に「努力課題」に関する改善を進め、その進捗状況を毎年度公表するとともに、その改善状況を全学大学評価会議において毎年度確認している（2015年度第1回・第2回全学大学評価会議）。以上から、文部科学省および認証評価機関等からの指摘事項について適切な改善を行っているとは判断している。

⑦ 自己点検・評価制度の中で抽出された「努力課題」については、概ね良好に改善が進捗している（2015年度実績：各組織5件/7件、大学全体の視点2件/5件）。「全学的課題」についても、1件が改善済みとなったことから、自己点検・評価の実施により各組織の改善が概ね進んでいるといえる。

⑧ 評価を改善に繋げる主体的な評価文化の醸成については、内部質保証や、方針に基づいた検証を視野に入れつつ、制度の継続性を見据え、本学に適した自己点検・評価制度を引き続き検討していく必要があると認識している。その具体策として、2015年度には、自己点検・評価に関する実務者説明会を実施した。今後も、継続課題である評価の質の改善や第3期認証評価の方向性を見据えつつ、意見交換やアンケート等から得た意見も踏まえ、自己点検・評価制度の改善を図る。

以上から、内部質保証システムが概ね機能していると評価している。

〔改善すべき点の確認〕 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。

改善すべき点

- ・各組織の自己点検・評価及び大学評価委員会委員による評価の質。
- ・組織内の情報共有の不足。

評価結果【留意点】

- ・自己点検・評価データベースを有効活用できる仕組みを構築されたい。

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。
・他組織の取組との比較や組織内での情報共有が促進されるよう自己点検・評価データベースを改良した。今後は、改良を学内周知することにより、有効に活用されるよう働きかけていく。 ・認証評価における指摘事項の改善が結実しつつあり、内部質保証の充実がはかられている。 ・自己点検・評価シートの改訂や実務者説明会の実施により、制度理解促進を支援した。

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。
・継続課題である評価の質の改善や第3期認証評価の方向性を見据えた自己点検・評価制度の改善。第3期認証評価の大学基準等に合わせて、評価項目・点検項目の見直し、検討を行う。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
1001	龍谷大学内部質保証のあり方について
1001	大学評価に係る公表の方針
1001	2015年度 自己点検・評価の結果公表について（2015年度第1回全学大学評価会議承認）
1002	大学評価に関する規程
1002	2015年度 自己点検・評価 抽出課題及び対応一覧（2015年度第2回全学大学評価会議承認）
1002	自己点検・評価 全学的課題事項の改善状況（2016年度第3回部局長会承認）
1002	2015年度自己点検・評価に関する総括について（2015年度第2回全学大学評価会議承認）
1003	自己点検・評価データベースシステム 操作マニュアル
1003	認証評価結果の指摘に係る改善計画及び改善状況（2016年度第1回全学大学評価会議承認）
1003	2015年度 自己点検・評価 実務者説明会 アンケート集計結果

Ⅱ. 評価結果

総評	
1001	自己点検・評価の実施と社会への公表については、適切に対応できていると評価する。
1002	自己点検・評価の結果をもとに、組織や部署単位で、改善に向けた取組が行われている。また、「全学的課題」を抽出し、2015年度においては、その内9項目を全学的課題事項とし、担当理事のもと、改善に取り組んでいることは、根拠資料にて明らかであり、今後も継続して実行されたい。
1003	「自己点検・評価データベース」については、十分な活用に至っていないとの判断により改良された。今後は、改良の学内周知に励んでいただきたい。
	文部科学省および認証評価機関等からの指摘事項について適切な改善を行っている判断する。
	自己点検・評価の実施に伴う各組織の改善状況については、概ね良好に進捗していると判断する。
	2015年度初旬、評価の質向上を目指し、実務者説明会を実施されたことは評価できる。ただし、根拠資料を確認すると、瀬田学舎での参加者が教員3名、事務9名、計12名と極めて少なかったことは残念である。その理由としては開催時期の問題が大きいと推察するが、今後実施する際は、原因を明らかにし、参加者増を目指していただきたい。
伸長すべき点（長所） 《箇条書き》	
・他組織の取組との比較や組織内での情報共有が促進されるよう自己点検・評価データベースを改良された。今後は、改良の学内周知に励んでいただきたい。 ・認証評価における指摘事項の改善が進んでおり、内部質保証の充実がはかられている。 ・自己点検・評価シートの改訂や実務者説明会の実施により、制度理解が促進できた。	
改善すべき点 《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載	
・実務者説明会への参加者増を目指していただきたい。【留意点】 ・第3期認証評価の大学基準等に合致した評価項目・点検項目の見直し等の検討を行っていただきたい。【留意点】	
※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要	

Ⅲ. 大学基準協会からの助言について

助言内容
【認証評価結果 長所】
1) 各組織の自己点検・評価の結果を、「全学大学評価会議」が学内第三者的な立場で評価し、その結果を各組織が組織的に改善に役立てていることは評価できる。また、内部質保証システムを確立すべく、法務課の設置や外部評価の積極的な活用を図り、貴大学における諸活動の改善につなげていることは評価できる。